

平成27年度 第2回 高砂市環境基本計画策定協議会 会議記録

開催日時	平成28年1月27日（水）午前10時00分開会～午後12時00分閉会
開催場所	高砂市文化保健センター3階 会議室1
出席者	武田会長、上甫木副会長、岩本委員、河合委員、松田委員、唐津委員、野々村委員、藤井委員、松本委員、小林委員（以上10名）
欠席者	なし
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 会議の公開について 2 市民意識調査結果について（説明） 3 第2次高砂市環境基本計画の構成案及び第1章計画策定の基本的事項について <ol style="list-style-type: none"> （1）第1章計画の基本的事項 （2）第2章計画の理念及び基本目標 （3）第3章基本目標の内容 （4）第4章環境基本計画を進めるために 4 第2章計画の理念及び基本目標について <ol style="list-style-type: none"> （1）理念 （2）①生活環境 ②自然環境 ③地球環境 ④環境教育 5 基本目標を達成するための取組について
資料	<ul style="list-style-type: none"> ○高砂市環境基本計画策定協議会（第2回）次第 ○資料1 高砂市環境基本計画策定協議会委員名簿 ○資料2 高砂市環境基本計画策定に関するアンケート調査結果報告書 ○資料3 第2次高砂市環境基本計画の構成（案） ○資料4 第1章計画策定の基本的事項（案） ○資料5 第2章計画の理念及び基本目標（案） ○追加資料 平成26年度版高砂市の環境

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局	(開会) ○開会あいさつ ○資料確認 それでは、お手元に配布している次第にそって議事を進めたいと思う。 まずは武田会長よりごあいさつをよろしくお願ひしたい。
会長	○あいさつ
事務局	これからの議事進行は武田会長にお任せする。
1 会議の公開について	
会長	高砂市環境基本計画策定協議会の会議の公開に関する要綱に基づき、今回の会議の内容について原則公開とし、本日の会議要旨を後日ホームページ等で公開する。 本日の傍聴者は。
事務局	本日、傍聴者はいない。
委員	会議を公開することについて、会議の方向性も決まっていない状況において内容を公開するのはどうかと思う。公開の原則については承知するが、委員のプライバシー等への配慮はされているのか。
事務局	公開にあたっては、その内容についても考慮し、発言者の特定はできない形また個人情報にも配慮した形において、会議内容をとりまとめた会議要旨の公開を想定している。
会長	公開する会議録には、誰が発言したのかは載らない。
委員	審議会や協議会において傍聴が可能であるが、開催については市民にどのような形で伝えているのか。協議会の公開について市ホームページで知ったが、開催内容ページまで何度もページを経由し、見つけにくかった。 市民アンケート結果にもあるとおり、市民の多くは市広報誌でいろいろな

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
会長	<p>情報を得ているが、本日の協議会については広報誌に掲載されていなかった。別の審議会については掲載されているものもある。市民に広く知ってもらうために、広報誌への掲載やホームページの改良について検討するべきではないか。</p> <p>会議の日程調整の関係もあり、広報誌への掲載が難しいこともあるようなので、ホームページには掲載するようにしている。</p>
事務局	<p>会議の公開を推進しなければならないとしながらも、情報を得にくいという指摘だと思う。</p> <p>ホームページへの掲載について、審議会については審議会等という項目として公開するよう市で統一しており、情報公開の項目からであれば検索も容易であるが環境関連のページからでは検索しにくい。全庁的な問題であるので、ホームページ担当課との協議を進めたい。</p> <p>広報誌については、日程調整の関係から掲載ができていない状況である。</p>
委員	<p>アンケートに回答している人が少なく、有効回答率は市民 40%、事業所 30%で、かつ 60 歳以上が半分、70 歳以上が 27%というような年齢構成から考えて、回覧板など紙ベースでの広報手段も重視し関心を高めるようにした方がよい。</p>
会長	<p>当協議会だけではなく、市全体の問題として。</p>
委員	<p>市部局ほとんどに審議会があり、会の数が大変多い。</p>
会長	<p>事務局に今後検討していただきたい。</p>
2 市民意識調査結果について	
事務局	<p>○資料 2 を説明</p>
会長	<p>ご意見、ご感想はないか。</p>
委員	<p>アンケートに回答する人に若い人が少なく、無関心である。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
委員	アンケート回答者に20代・30代の人が少なく非常に残念である。 先日自宅にもアンケート回答の依頼があったが、回答数の少ない20・30代の回答を求めるものであり協力できなかった。若い世代は忙しいこともあると思うが、平均しているんな年代からの意見を集めることのむずかしさを感じる。自分たちの未来の世の中のことに関わる計画であるのに、なかなか参加できにくい年代があるのは残念である。
事務局	各年代からの無作為抽出であったが、若い年代からの回答が少なかった。
副会長	20代・30代が興味を持つような施策や計画のメリットを盛り込む必要があるのではないかと。また、魅力だけではなく、自身らも一緒に取り組まなければならないという意識啓発も重要である。そうでなくても、環境施策については興味が薄く、市民にとってはハードルが高いと考えられている。後の施策にも関係してくる課題である。 20代の回答は少ないながらも6%あるので、世代別の傾向を解析すると有効な情報になり、環境学習や消費行動につながるのではないかと。
委員	他市においては、市民・事業所ともに回答率が40%のところもある。高砂市においては事業所の回答率が低い。
会長	環境基本計画は若い世代に知ってもらわないといけない。
委員	アンケート調査への理解と関心はあるのか。身近な川や山は実際にはゴミが捨てられているところもあり、関心持つことでこのようなことをなくす対策を進めなければならない。
会長	環境基本計画の策定にあたっては、若い人に興味をもってもらえるような内容にしていかなければいけないし、関心のない人にどのように関心を持ってもらうかを検討していかなければならない。 アンケート結果については以上でよいか。
3 第2次高砂市環境基本計画の構成及び第1章計画策定の基本的事項について	
会長	では次に議題3について、資料3・4に基づき説明をお願いしたい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局	○資料 3、資料 4 を説明
会長	内容について、ご意見はあるか。
委員	資料 4、12 ページに農家一戸あたりの経営耕地面積が平成 12 年に 26.3a とあるのが平成 22 年には 12.0a とあり半分以下にまで減少しているのはなぜか。
委員	農家数も減っている。
事務局	農地面積が元来少なく、後継者不足や農家個別の問題もあり年々減少傾向にある。
委員	13 ページの平成 23 年、東日本大震災後における原発事故を起因とした電気使用に伴う排出係数増加による、温室効果ガス排出量増加はどういう意味か。火力発電にシフトしたからということか。
事務局	そうである。原発より化石燃料を燃焼させると CO ₂ を多く排出するので、1kWh あたりの CO ₂ 排出量が増えるものである。
委員	産業・エネルギー転換部門において、高砂市は 8 割と非常に高い。家庭部門が 9 割増加とあるが、市において占める割合は 2 割ということか。
事務局	1990 年に市全体では 200 万 t を排出し、その約 8 割が産業部門で残り約 2 割は家庭部門を含む民生部門及び運輸部門等であった。現在は産業部門は 8 割弱であるのに対し、家庭部門は当時より約 2 倍に増加している。
委員	10 年間の家庭部門において、人口はあまり変わっておらず、高齢者が増えてきているが、そんなに増加するのか。世帯数が増えているのか。
委員	家の数が増えるから、電力を多く使うのか。
事務局	そうである。全国的な傾向で、多人数世帯よりも一人暮らしや少人数の世帯が増えており、例えば車の所有台数や、家庭内の電化製品の複数の設置などにより家庭部門における増加につながっている。また産業部門以外には、

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
	家庭のほか金融機関やサービス部門・商店部門等もあり、産業部門以外の 2 割すべてが家庭部門によるものではない。
委員	家庭においての使用量も増えているのか。温暖化の影響等もあり、夏場はエアコンが必須であることなども要因としてあるのかもしれない。 工場においては微増ということか。
事務局	そうである。家庭部門は、生活様式の変化もあると思う。
委員	12 ページの産業分野で、「漁業の就業者数が年々減少傾向にあり」とあるが、昔に比べて激減している。対策はないのか。
事務局	他市が持つ流通力やブランド力を高め、次世代の育成につながるよう、高砂市も検討していく。
会長	12 ページの産業別就業者で、第一次産業が 214 人とあるのは合っているのか。そんなに少ないのか。
事務局	合っている。林業はゼロで、専業農家もいない。
委員	農業は、農家の率は少なくないが、自家用の作物を作っているところも多い。それを計上するかどうかであるが、出荷の有無についていえばこのぐらいのものである。
会長	「はじめに」のところで、地球環境や日本の産業がどうなっているかということ的背景に、高砂市の現状を述べた方がいいと思う。高砂市の話ばかりになってしまっているので、今地球にどんな問題が起きていて、どのような環境保護が行われ、日本における取組はどのようなものであるか、その上で高砂市の現状を記述する方がよい。温室効果ガスや気候変動など地球規模の問題との関連を記述すればどうか。
事務局	検討する。
副会長	関連して、改訂にあたり現行の環境計画を 20 年間実施した総括として、取り上げた項目を社会情勢を踏まえた視点から見直すということにも触れ

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局	ておく方がよい。
会長	4 ページの「計画改定の趣旨」においても触れているが、ご指摘のとおり現在の計画の分析についての内容の追加を検討する。
事務局	資料4については以上でよいか。
会長	次の議題に進みたい。事務局の説明をお願いしたい。
4 第2章計画の理念及び基本目標について	
事務局	○資料5を説明
会長	ご意見はあるか。
副会長	<p>「理念」について、後段に「公害防止」「景観」「自然共生」といった概念に基づくとの記述があるが、基本目標とする「生活環境」「自然環境」「地球環境」「環境教育」との関係性の整理が必要である。この文案では伝わりにくい。</p> <p>また、「理念」と「基本目標」においては理想的な言葉を選んであるが、例えば水環境については、今の状態のものでいいのかを研究しなければならない。アンケート結果においては、不満に感じている市民がいることも読み取れる。保全すべきは保全し、さらに整備を必要とするとか、再生や創生のような意味を持たせるのであれば「将来に続く」では印象が弱い。</p> <p>「基本目標」については、当然であることが記述されているので、市独自で何ができるのかを検討し、もう少し具体的な記述をするべきである。</p> <p>「(1) 生活環境」では、水や緑の質の現状について勘案することや、マナーの向上は啓発や学習の必要性をいずれの基本目標に加えるか検討するべきである。</p> <p>「(2) 自然環境」では、前述の生活環境において水や緑の質に触れることを前提とすると、ここでいう自然とは、生態系や生物多様性というキーワード、また生活基盤やインフラも整備などに及ぶ持続的な土地の活用等への言及が必要ではないかと考える。</p> <p>「(3) 地球環境」の低炭素社会の構築については、大筋はこのまま、廃棄物の現状や、省エネといっても3Rや教育行動、ライフスタイルといったキーワードを取り入れるほうが分かりやすい。また、低炭素社会の仕組みづくりの具体的記述も必要であると思う。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
会長	「(4) 環境教育」については、対象は子どもたちだけという意味であるのか。環境教育は、学校と社会の両方で推進されることが必要であり、マナー向上や、教育の普及、実践における市民活動の推進もここに盛り込んでいくほうがいいと思う。
委員	基本理念はいかがか。わかりやすく読みやすいものがよいと思う。
会長	「将来」と「未来」はどう違うのか。
委員	「将来」は比較的近く、「未来」はそれより先を見越しているような意味合いであるのではないか。実際の政策としては、遠い未来のことを計画することは困難であり、「将来」の方がよいのではないか。
委員	全体的に、市民にわかりやすいものであるべきだと思う。本環境基本計画は先 10 年にかかる計画であり、市民が主体となれる方法を行政は模索し、市民・事業所・市が共同で実行していける計画であることが必要ではないか。
委員	第 2 章については、構成は概ね文案どおりでよいが、水についての記述が気にかかる。市として、親水空間といえるところはどこであるのか。市内のため池、海辺、川辺はいずれも整備してあり、近づくことはできるとしているが、その反面、アンケート結果によれば水の汚れや水質の管理を含む安全面を危惧する意見もあることからすると、それは親水箇所といえるのか。また、産業廃棄物についても、市の監視を強化させるべきである。家庭ごみについても、ごみ減量についてのあり方を検討されたい。
会長	「(4) 環境教育」について、市内のある学校では自然や農業を知る教育プログラムがあり、学校生活の中で多面的に学習している。子ども達は生き生きと学んでおり、有効な手段であると言える。
委員	基本理念「自然・まち・ひとが共生し 水と緑のやすらぎが 将来に続くまち 高砂」にかかるキーワードについてはいかがか。
委員	現行の環境計画は読みづらい印象であった。市民が読みやすい、易しい書き方で改訂していただきたいと思う。他市の環境基本計画では比較的分かりやすい言葉で表現されているものもあり、高砂市においても施策の上で可能な限り分かりやすい言葉を使ってほしい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局	<p>また、他市においても地球規模の環境問題や国際問題を関連付けているものが多い。高砂市の環境に大きな方向性はないのか。</p> <p>ご指摘のとおり市としての明確な方向性がないのが現状である。今回の計画改訂を機に、協議内容を踏まえ、市の環境施策の方向性をお示しすべきであると考えます。</p>
委員	<p>社会情勢も踏まえ、キーワードの選択は慎重に行うべきである。</p>
委員	<p>「(4) 環境教育」について、利便性が向上した現代において、文明の利器が発達する前の言わば不便な生活を体験してみるのはいかがでしょうか。身近な行動としては、車ではなく自転車で移動してみたり、また地域ぐるみで年長者が子ども達に伝えることで、地域のつながりもできるのではないかと。</p>
会長	<p>前述のような具体的方針などは第3章で挙げるのか。</p>
事務局	<p>そうである。</p>
会長	<p>具体策については次回以降の協議会において継続協議する。</p>
委員	<p>理念と基本目標については、もっと短い言葉で表現する方がよい。短い言葉で、実行した結果がなにに結び付くのかを説明する方が伝わるのではないかと。短い言葉でも、ふるさとや美しい景観を思わせるものがあればよい。</p> <p>「(4) 環境教育」については、教育の結果、子ども達に高砂市の何を大事にしてほしいのかを明らかにし、具体的な教育プログラムを検討してはどうか。廃棄物や、海、農地、山、川の様々な分野の教育が考えられるが、そこに一筋の方針が存在するべきである。子ども達が学んだことは、親をはじめとする若い世代を取り込むきっかけになり、大人も一緒に学ぶことのできるプログラムの構築が重要であると思う。具体策として検討していただきたい。</p>
委員	<p>高砂市の良さをもアピールできる計画であってほしい。</p>
委員	<p>高砂市には高御位山もあり、人の注目を集めることができる自然環境がある。まちおこしにつながるような環境づくりを発信してはどうか。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局	基本理念を短くすることについては前向きに検討したい。今後も理念にかかるキーワードを提案していただきたい。
会長	事務局は、委員の意見については、協議会内外を問わず受け付け、集約していただきたい。
事務局	承知した。
会長	他にご意見はあるか。
委員	公害について、市民や行政も見地を深める必要がある。
事務局	「高砂市の環境」を委員の方々に配付させていただく。
5 基本目標を達成するための取組について	
会長	(本協議会においては協議せず、後日事務局と委員とで郵送にて意見を集約し、次回協議会にて協議する旨を合意) それでは終了したい。ありがとうございました。 (閉会)